

加古川市の埋蔵文化財



加古川市教育委員会

加古川市の埋蔵文化財

遠く丹波に源を発する加古川の清流が瀬戸内海に注ぐところに、肥沃な印南野の沖積平野を形成している。

加古川市は、この肥沃な印南野の加古川下流域の両岸に位置し、古代から加古川の清流と共に人々が生活し、多くの歴史と豊かな文化の中で発展してきたところである。

市内には、これら古代人が遺したたくさんの遺跡が点在しているが、今その分布状態をまとめてみると下表のとおりである。

なおこの表は現在までに発見されているもののみで、今後の調査によって更にその数が増加することは明らかである。

—— 地域別埋蔵文化財包蔵地一覧 ——

昭和45年2月1日現在

地域別	遺跡時代 旧石器時代	御文 時代	弥生 時代	古墳時代			墓址	寺址	条里	城址	平安 集落	鎌倉 末期	計
				前期	中期	後期							
加古川町	1		3	(1) 1	6	(17) 20			1	1	4		(18) 37
神野町	1		(3) 3		(3) 7	(26) 31			2		3		(2) 49
野口町			1	1	1			2	1	4			10
平岡町	1										2		3
尾上町			2			2			1	2			7
別府町													—
八幡町	1	(1) 3		2	19		3	1		3			(1) 32
平荘町	1	1	2	(2) 4	(38) 69						1		(40) 78
上荘町			1	6	11		2		1	2			23
東神吉町			5		19				1	2	1		28
西神吉町	1	2	3		5		1	1	1				14
米田町													—
計	4	4	(4) 21	(1) 5	(5) 25	(81) 174	2	6	7	6	23	1	(93) 281

このうち()内は消滅したもの。

このようにたくさんの埋蔵文化財が遺されているが、ここにその重要なものについて簡単に説明してみよう。

加古川町の遺跡

溝之口遺跡（弥生時代中期）

播磨国道加古川バイパス建設工事中に発見された溝之口遺跡は、調査によって弥生時代中期から平安時代末期までの遺跡と考えられ、その範囲も非常に広範囲に亘り、約1平方キロにもおよぶのではないかと考えられる。

この調査によって、弥生時代中期の住居址2基、ベッドをもった後期の住居址5基（うち方形1基）、古墳時代の住居址1基（方形）、木棺墓1基の追跡と、弥生時代中期の壺（完形品）をはじめ、多数の土器、石器等の遺物が発見され、低湿地における弥生時代の遺跡としては、非常に貴重なものとして知られている。<播磨・東溝弥生遺跡1—加古川市東溝遺跡第一次調査概報—>



—溝之口遺跡出土の壺—
(弥生時代中期)

日岡山の遺跡

日岡山は古代から山全体に祖靈の宿るところとして、古代信仰の中心とされていた。

先土器時代の遺跡

日岡山の南斜面から先土器時代（約10,000年以前）の石器（ナスカイト、黒曜石チャート）が発見されている。このことは、先土器時代にすでに私たちの祖先が、この日岡山に生活していたことを物語るものである。

日岡山の古墳

日岡山には前期の円墳1基（東車塚、戦後土採りのため消滅）と、12代景行天皇のお后福日太郎姫命の御陵といわれる古墳（中期の前方後円墳）をはじめ、古墳時代中期の前方後円墳4基（福日太郎姫命陵、勅使塚、南大塚、西大塚）中期の円墳2基（狐塚、西車塚）、

その他日岡山公園内に多数の後期古墳が点在している。

東車塚（前期の円墳）

戦後土採りのため消滅しているが、その土採りの時に下記の遺物が出土していて、現在市の考古資料館に展示している。

三角縁二神二獸鏡（漢式鏡） 1面

廻手文丁字鏡 2面

石 鍋 2個



—東車塚出土の三角縁二神二獸鏡（漢式鏡）—

程日大郎姫命陵 <墳墓> (中期の前方後円墳)

御陵のため詳細は不明

勤使塚 (中期の前方後円墳)

前方部が一部道路のため削られているが、その他は原形のままと思われる。

全長 約60m 後円部 径約35m
前方部 幅約20m

南大塚 (中期の前方後円墳)

前方部は竪穴式石室が露出する程削られているが、その他は原形のままと思われる。後円部前方部共石室には板石を使用している。葺石も一部確認されている。

全長 約77m 後円部 径約52m
後円部 高さ約8m 前方部 高さ約4m

西大塚 (中期の前方後円墳)

後円部墳頂の封土が相当流されて、粘土櫛らしきものが露出してしまっているが、周溝も残り、ほぼ原形をとどめている。

全長 約74m
後円部 径約42m
後円部 高さ約2m

狐塚

(中期の円墳)

墳径約70mではば原形のまま遺されている。



一日岡山全景

西車塚 (中期の円墳)

墳径約16mではば原形をとどめている。

神野町の遺跡

神野町には、市内でも最もよく原形をとどめる古墳時代中期の前方後円墳『行者塚』。をはじめ同じく前方後円墳の北大塚、県下最大の中紀の円墳、人塚、尼塚の他に、神野団地造成のため惜しくも消滅したが、発掘調査によって弥生時代の墳墓で、この調査の整理が完了次第、中学校

・高校で使用されている教科書も書き替えられるのではないかといわれ、学会でも貴重な資料として検討されている西条52号墳など、多数の遺跡が遺されていた。

先土器時代の遺跡

神野町西条城山の南斜面から、先土器時代の石器（宮田山式、井島式）が発見されており、ここにもその時代から人々が生活していたことが知られる。

弥生時代の墳墓（団地造成のため消滅）

県営団地の造成工事に伴ない、発掘調査を実施した際に、3基の弥生時代の墳墓（木棺直葬と壇棺ならびに次に説明する52号墳）が発見されている。

西条52号墳（弥生時代の墳墓、団地造成のため消滅）

県営団地の造成工事に伴ない行なわれた発掘調査によって、他の2基の弥生の墳墓と共に発見された。

墳形は円形の土盛で、主体部は地山を矩形掘りコの字形の石積をなし、東側は石積をせず地山を壁とするもので、その石積は当地方に見られる前期古墳の堅穴石室のようなところがあり深さは約0.9m、巾1.4m、長さ3.5mであった。

この石鏡の床面は礫を敷きつめ朱が散乱していた。出土品は、鉄劍、弥生式土器片の他に、内行花文鏡（径18cm「金長宜」などの銘があり、恐らく「長宜子孫壽如金石」の銘をもつものと思われる、精良な鏡である。）が発見されている。

弥生式土器を含む等他に類例を見ない本遺構の発見は、考古学上貴重な価値をもつものと思われる。

行者塚（中期の前方後円墳）《兵庫県指定重要文化財》

市内の前方後円墳のうち、前方部を除いて周溝の遺構が完全に遺されているものは、この行者塚を除いては他にない。

この古墳は、昭和44年3月
兵庫県重要文化財に指定された。

ここから発見された家型ハニワ1個が、神戸大学に保管されている。

全長	約90m
後円部	径約64m
後円部	高さ約12m
前方部	巾約47m
前方部	高さ約3.5m



—左は尼塚、中央手前が行者塚、
中央向うが人塚、人塚の右が西条廃寺址—

北 大 塚 (中期の前方後円墳) 《市指定重要文化財》

日岡山古墳群に含まれるものであるが、明治時代に前方部がくずされて畠にされていた。周囲の宅地造成工事に合わせて充却され土採りされてしまい、現在後円部と後円部の周溝の一部を遺すのみとなっているが、墳丘を覆う葺石もはっきり遺されており、周溝の部分の葺石も断面にはっきり確認されている。破片ではあるが円筒ハニワ片が発見されて、昭和43年4月、加古川市指定重要文化財に指定された。

全 長	約70m	後 円 部	径約40m
周 溝	約10m		

人 塚 (中期の造り出しをもつ円墳、県下最大)

前方部の造り出しの部分と、周溝の部分が土採りのため削り取られ、原形をとどめないのが非常に残念であるが、墳径50mの円墳としては県下最大のものである。葺石、ハニワを周囲にめぐらしている。

墳 径	約50m	墳 高	約8m
周 溝	約18m		

尼 塚 (中期の円墳)

行者塚より更に古い時代の円墳で、造り出しと周溝を有し、円墳としては県下でも3番目の大きさの規模をもつ古墳である。

墳 径	約40m	墳 高	約4m
周 溝	約8m		

西 条 废 寺 《兵庫県指定重要文化財》

白鳳期創建の寺院址で、昭和40年神戸大学多淵敏樹氏によって調査し、遺構が確認されている。

塔の礎石は、1.05mに1.16m、高さが72cm、孔の径45cm、深さ22cmの大きさで、現在神野町西条墓地に保存されている。

瓦では、丸瓦の完全なものと風鐸が常光寺に保管されている。

石 守 废 寺

西条廃寺と共に、白鳳時代の寺院址として知られ、塔の心礎が遺されてい



—西条廃寺出土の古瓦と風鐸—

野口町の遺跡

野口町円長寺に弥生遺跡と、古墳時代前期の前方後円墳1基、その他野口廃寺、古大内廃寺などの遺跡が遺されている。

聖陵山古墳（前期の前方後円墳）

前方部はつぶされて現在寺院が建てられており、後円部は太平洋戦争中、軍によって防空壕が掘られるなど原形をとどめていないが、多数の遺物が出土して一部は市の考古資料館や円長寺に保管されている。

この古墳は、当時発達してきた瀬戸内の海上交通を握っていた豪族の墓ではないかとの見方もある。

全長	約70m	後円部	径約33m
後円部	高さ約6m		

野口廃寺

白鳳時代の寺院址と見られ、多数の古瓦が出土している。

古大内廃寺

この廃寺址より出土する古瓦は、もっぱら播磨國分寺系列瓦であることから、これを實古駅家と推定している研究者もある。

平岡町の遺跡

平岡町山之上は、播磨町大中遺跡（国指定史跡）に隣接しているところで、ここからは先土器時代の石器（宮田山式、井島式）が発見されており、その時代にすでに人々が生活していたことが知られる。

尾上町の遺跡

尾上町今福に弥生時代の遺跡が確認されている。遺跡は非常に浅い面にあり、農耕作業等によって、タコつぼ型土器、土錐等の弥生式土器が発見されており、遺跡が相当広範囲にひろがっていることが想像される。

また、播磨風土記により、景行天皇にまつわる伝説で知られている松原の御井が、尾上町養田の海岸近くに遺されている。

八幡町の遺跡

八幡町には縄文時代の遺跡から弥生時代、古墳時代の遺跡が多数遺されている。

縄文時代の遺跡としては、上西条宮山に縄文時代晚期の敷石式住居址、弥生時代の遺跡としては、大正時代に本市で唯一の銅鐸が出土した盆地、更に壺棺に使われた弥生式土器の壺等が出土した大日山遺跡、古墳としては中期の円墳1基を中心後期古墳6基を有する宮山古墳群や、その他にも數基の古墳が見られ、更に須恵器の窯跡が3基発見されている。その他石斧、石槍等も発見されている。

縄文時代の遺跡

八幡町上西条宮山にあり、昭和40年冬と夏の2回に亘る発掘調査により、縄文時代晚期の敷石式住居址が発見され、その他祭祀址等も発見されている。

弥生時代の遺跡

大正時代に本市で唯一の銅鐸1基の他に、弥生式土器を出土した盆地（八幡町上西条）があり、この銅鐸は現在市内別府町の多木氏が保管されている。

また、壺棺に使用された弥生式土器の壺（高さ76.8cm、胴の最大の径53.5cm）その他の土器が発見された八幡町下村の大日山遺跡がある。

この土器は現在市の考古資料館に展示されている。

宮山大塚古墳

（中期の円墳）

八幡町上西条宮山の宮山古墳群の中核をなす円墳で、半島状に突き出た台地の突端部約23,000m²の中央に、縄文時代の遺跡と共にあり、市の重要文化財に指定されている。

径 約25m 高さ約6m

野新村窯跡（須恵器窯）

八幡町野新村と稻美町の境



一宮山全景

界に沿った山中にあり、窯跡3基が並んでいるのが確認されている。

このうち1基は、土探しのため窯室の断面が露出し、窯特有の周辺部が赤茶色に焼けたU字形の壁面がキレイに出ていている。

上莊町の遺跡

加古川の北岸にあたる上莊町にも、古墳時代前期の前方後円墳“長慶寺山1号墳”をはじめ多数の古墳、窯跡等がある。

この長慶寺山1号墳は古墳時代前期でも、もっとも早い時期のものと考えられており、これ

らのことから周囲の小高い丘陵地の山頂部に点在する古墳は、相当古い時代のものであろうと思われる。

長慶寺山1号墳（前期の前方後円墳）

上莊町都染の長慶寺山の山頂部にあり、過去において地元の中学校の社会科修習として一度発掘調査が行なわれ、内行花文鏡1面の他に多数の鉄剣、鉄器等が発見されている。

これらの遺物はすべて市の考古資料館に展示されているが、遺物等によりこの古墳は、弥生時代末期から古墳時代初期にかかる時期のものであると推定されている。

この長慶寺山には他に1基の方墳（一边21m）と5基の円墳があるが、これはすべて中期の古墳である。

白沢窯跡

上莊町白沢に2基、見土呂に1基の窯跡が発見されている。このうち白沢窯跡3号は山根の土採りされた断面に灰原が出ており、奈良時代後期の須恵器片多数が発見されていて、現在市の考古資料館に展示されている。

平莊町の遺跡

平莊町の山間部の池の周辺から、先土器時代の石器が発見され、平莊町池尻平山には弥生時代の住居址が発見されている。又、平莊湖によって県下でも有数の石室を有する稚児窓古墳をはじめ、多数の古墳が水没したが、それ以外にもまだ多くの古墳が現存している。

また、この平莊湖の周辺から、先土器時代、縄文時代の石器等が発見されている。

先土器時代の遺跡

平莊湖の周辺より石礫、石砲丁、その他の石器が発見され、その他山間部の池の周辺からも、この時代の石器が発見されている。

平山住居址（弥生時代の遺跡）

平莊町池尻平山地区で、民家の建築中に発見されたので、円形住居址の半分が民家の下になり、半分が昭和38年に発掘調査された。その周辺についてもボーリング調査の結果、数戸の住居址が発見されているが、周囲はすでに民家が建築されてしまって、現在では一部の畠地を残すのみである。

遺物としては弥生時代中期の土器、石剣、石錘等が発見されている。



—長慶寺1号墳出土の内行花文鏡—

天坊山古墳（前期の円墳）

最近関西電力の工事により発見された天坊山古墳は、標高162mの山頂にあり、ここから人骨の他に銅鏡、鉄刀、鐵鎌、ヤリガンナ、土師器片等が発見されたが、その後の発掘調査によって、径約14mの円墳で、盛り土の高さ1m40cmあり、石室が2基並行してつくられていた。これら石室の規模は

イ	ロ
長さ	4m90cm
巾	1m10cm
深さ	1m10cm
	1m

であり、調査によって発見された遺物は、鏡の破片が2個（三国時代の船帆鏡で、径約15cm位）と鉄刀、鉄劍の破片が少しで、四世紀後半の古墳であろうと推定される。

稚児窟古墳（後期の横穴式古墳、平莊湖により水没）

県営の平莊湖が建設されたため、多数の古墳が水没したが、中でもこの稚児窟古墳は県下で有数の石室を有し、一部考古学研究者から移転の要望も出たことがあるが、水没させることになった。

現在平莊湖脇に移転された弁天神社の境内に、この古墳に使われていた石棺（家型石棺の蓋）が保存されている。

一説によれば、秀吉が姫路城築城の時、石材不足のためこの石棺も利用しようとしたが、あまりにも大きく運搬できないため、石室外に出しただけに留まつたといわれている。

なお、この石棺の身の部分が同じ理由で、志方町投松の地点にて運搬不能のため放置されていて、実測したところ、この弁天神社境内のものとピッタリ一致する。

池尻2号墳（中期の堅穴式古墳、消滅）

縦4.5m、横1.2m、
高さ0.6mの堅穴式石室
を有する中期の古墳であ
った。この古墳からは、
胄、短甲、鉄刀、鐵器、
馬具その他漆が二つくっ
ついた珍らしい形の双鏡、
鏡その他ハニワ片等が多
数発見されている。

（加古川市文化財調査報
告—3「印南野—1」）



—稚児窟古墳の石棺—

池尻15号墳（後期の横穴式古墳、円墳）

この古墳の石室は構造、規模において播磨地方で類例をみない。横道の長さに比較して玄室の長さが多に近い数値を示し、細長い横道と石室の全長が14.23mを測るといふいわゆる巨石墳の類例は、今後の研究に貴重な資料となる。

なお、本墳からは非常に多数の遺物が発見され（馬具、武具、金製の装身具、土器等）1古墳の副葬品としては、きわめて豊富多彩である。

（加古川市文化財調査報告—3「印南野—1」）

カシス塚（中期の横穴式古墳、水没）

現在発掘調査後の整理中のため、くわしいことはいえないが、この古墳からは純金製垂飾付



カシス塚古墳出土の純金製垂飾付耳飾

カシス塚を除くその他の古墳は、「印南野—2」において公にされており、遺物はすべて市の考古資料館に展示されている。

カシス塚については、「印南野—3」によって公にされる予定である。

東神吉町の遺跡

加古川の西岸にひらけた沖積平野には、弥生時代前期の東神吉遺跡、弥生時代後期の天下原遺跡、更に後背の丘陵地には古墳群が築かれていて、古代人の生活のあとがうかがわれる。

東神吉遺跡（弥生時代前期の遺跡）

東神吉町砂部で田の地下げ中に多数の弥生式土器が発見され、その周間に弥生時代の遺跡があることが知られていたが、播磨國道加古川バイパス建設工事に伴ない、バイパス地内において昭和42年1月と5月から8月の2度にわたり発掘調査を実施したところ、弥生時代の遺跡が

発見され、出土した遺物から弥生時代前期の遺跡であることが判明した。

この調査では農耕用の溝らしきものと、多数の土括が発見され住居址等は発見されなかったが、調査範囲が加古川バイパス建設地内に限られていて、遺跡の一部分の調査をおわったためと思われる。（東神吉遺跡発掘調査略報1次、2次）

天下原遺跡（弥生時代後期の遺跡）

市道建設中に発見され、昭和43年3月に発掘調査が実施された天下原遺跡は、現在調査結果を整理中のため、くわしくはわからないが、3間四方の倉庫址1基が発見され、更に他に多数のビットが発見されていて、周間に弥生時代後期の住居址があるものと思われる。

古墳

後背地の神吉山ならびに丹田山の山頂には10数基の古墳が築かれ、弥生時代から古墳時代にかけてこの肥沃な印南野に、多数の人々が生活していた姿が偲ばれる。

西神吉町の遺跡

西神吉町には、西村地区から先土器時代の石器（宮田山式、ナスカイト製）が発見されており、岸地区に縄文時代晚期から弥生時代にかけての遺跡があり、大園、中西地区からも弥生式土器が多数発見されている。（加古川市文化財調査報告—1「岸遺跡調査報告書」）

また、後背地の宮山の頂上、辻地区等には古墳が築かれている。

これらのことから岸、大園、中西とつづく台地上（前方の低地よりの比高約3m以上）は縄文時代から弥生時代、更に近世へと人々が生活を営んできたことが考えられる。

そして前方の低地に農耕を営み、生産技術の向上に伴なって現在の部落の周囲にも農耕の堀が広まってきたものであろう。

中西廃寺

白鳳期創建のもので、心礎をはじめとする礎石類や、石造の精花・露盤・刹などが出土するので、塔を備えた寺院址であることがわかる。

出土する古瓦から平安後期まで存続した寺院址であろう。



—中西廃寺の心礎—

以上、加古川市内の埋蔵文化財について簡単に述べてきたが、個々の詳細についてはそれぞれの調査報告書によって明らかにしたい。

○○用語の解説○○

先土器文化

「土器を伴わない石器時代の文化」無土器文化、縄文以前の文化という意味でプレ縄文文化ともいう。旧石器文化と中石器文化を含む。地質学上では洪積世に属する。岩宿遺跡の発見で確認した。大分県丹生や群馬県不二山遺跡が最も古い。

縄文文化

「縄文式土器の使用されていた時期の文化」ほぼ紀元前8,000年から紀元前200年ころまで継続したが、狩猟、漁撈など、採集経済の段階に終始した点で一貫した特徴をもっている。住居は堅穴住居を主とし、利器は石器で、磨製石器も使用された。装身具も晩期に豊富になり、巨大な石柱や土偶に当時の信仰のありさまがうかがえる。

弥生文化

「弥生式土器の使用されていた時代の文化」縄文文化につづき、ほぼ紀元前3.2世紀から2.3世紀にわたるとされている。文化の特徴は、水稻耕作の開始、金属器の使用にあるが、金属器には宝器化した青銅器と鍔先や錘などに使用された鉄器とがあった。後期には鉄器が一般化し石器を駆逐したようで、石製利器は少なくなる。低湿地に水田を經營するため住居は低地に進出し、登呂などのように大集落も形成され、支配者階層も発生した。

古墳文化

古代国家の形成期における古墳文化を中心とした文化。

〔前　期〕

3～4世紀 1600年～1700年以前

古墳は畿内及びその周辺の台地、丘陵に散在し埋葬された豪族は司祭的な性格をもち、副葬品も呪術的な碧玉製品や鏡のような宝器が多い。

〔中　期〕

5世紀 1400年～1500年以前

応神、仁德天皇に代表されるように、古墳は次第とりまかれた壮大な「前方後円墳」が中心になる。これは大陸の技術導入による築造術の向上をしおぼせるが、強大な王権を誇示している。

分布もだいぶ方にひらがりをみせ副葬品も呪術的なものほかに鉄製の武器や実用品が多くなる。

〔後　期〕

6～7世紀 1200年～1300年以前

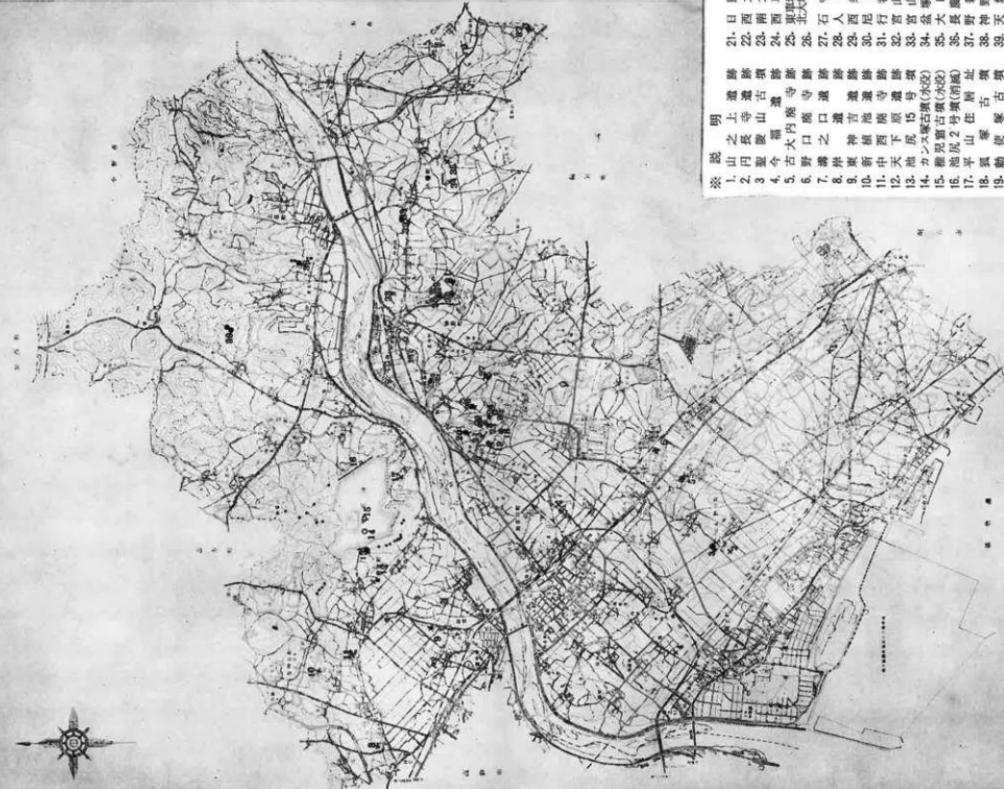
古墳の規模は小さくなるが前代に較べて量的には激増する。これは大和朝廷の職務の細分化とともに多い多数の官人が出現したためである。古墳が広い範囲の人々に作られるようになると、古墳自体もそれに適応する変化をみせ、これまでの堅穴式石室にかわって横穴式石室が採用されるようになった。副葬品は呪術的なものが一掃され甲冑、馬具、装身具、須恵器のような生活必需品が多くなった。

- 周 辻** 水をたたえ古墳の威容を強調すると共に墓壇の限界を示すが、またその採土で墳丘を盛り上げたとも思われる。
- チャート** **朱** (Chert) 玉髓質石英の一種で堅硬緻密貝殻状断口を示す打製石器の材料赤色硫化水銀 (HgS) で天然に辰砂として産する。縄文晩期主として土器や骨角器 etc の彩色に用いられ古墳時代には石室に塗彩したり、棺内の遺骸を詰めるのに用いられた。奈良時代には顔料として多く使われた。
- 土 錘** 弥生の石錘に比べ型の種類に乏しい。管状のものが多く形に大小あり、大形は長さ 5~6 cm、径 3 cm。
- 石 錘** 縄文、弥生、一般には扁平な円形礫の長軸両端を打欠いて、糸懸けとした石。漁網の網に列ねつけた錘であろうとの名が与えられた。用材は砂岩質のものが多い。
- 葦 石** 古墳、墳丘の表面に河原石等を敷きつめて墳墓の表飾とし、同時に雑草 etc の繁茂を防ぎ、又封土の流出を防止する施設。墳丘の全表面というより斜面やその一部に部分的に施される場合が多い。
- 土器** 土師器、須恵器の中で腹部に小孔のある埴（つぼ）をいう。古墳時代末期になると台がつくようになる。
- 便 道** せんどう 古墳内部構造の一種。玄室から外部に通ずるトンネル様の通路である。
- サスカイト** 石鍊、その他の原石としてひろく使用せられた。一名カンカン石、讃岐石とも呼ばれ、金属性製品でたたくと金属音を発する。
- 石 室** 遺骸を棺などに安置し葬品などを含せて収めた埋葬施設を保護するために周りを石でかこんだ墓室である。
- 石 棚** 古墳内部構造の一種。遺骸または棺に直接土がふれぬよう石、木、粘土などで造った保護施設を棚とよぶ。石室と同意の場合もある。

略年表

中 国	日 本	
	先土器時代	
	草創期 前期	—約8,000～ 9,000年前 —3,500
	中期	—5,470年前
	後期	—4,770年前
	晩期	—1,700
		—3,670年前
		—700
		—2,670年前
	—300	—2,270年前
	出生時代	
	前期	—200
		—2,170年前
		—100
	中期	—2,070年前
		—B.C A.D
	後期	—200
		—約1,700年前
後漢		
239		
三國		
西晋		
東晋		
宋		
南北朝		
隋		
唐		
	古墳時代	
	飛鳥	
		—600
	奈良	
		—700
		—約1,200年前
	平安時代	
		—800
	西暦	今から —1,170年前
		逆算

圖全市古川加



昭和45年3月1日

発行 加古川市教育委員会